

誰もが安心して ありのままの自分を認め合える 地域社会に向けて

「いきやすさ、いきにくさは自己責任なのか」

トヨタ財団の助成を受けて始まった「いき○研究会」の実践研究は、この問いから始まりました。2年間、ひきこもりの人へのインタビュー、県民アンケート、市民イベントの開催を通して、表題のテーマについて検討を重ねてきました。

本日はその集大成をご報告し、

会場の皆さんと地域共生社会の実現について考えていく時間になれば幸いです。

日時 > 2025年 9月 20日 (土) 13:00 - 16:00

会場 > 米子コンベンションセンター 第7会議室 (鳥取県米子市末広 294)

オンライン配信有

参加無料 (会場定員: 100名)

※先着順。定員に達し次第締め切ります



生笑一座 講演 13:05~

野宿経験のあるメンバーが自身の苦労働体験や人生について語ります。彼らが語る「生きてさえいればいつか笑える日が来る」の言葉は当事者だからこそ力があると、座長で抱樸理事長の奥田さんは話します。死線を彷徨った彼らが、今日笑っている。その疑いのような事実が、私たちに希望を灯してくれます。

いき○研究会 活動報告 14:15~

「生きづらさを抱えた若者への支援」に共通の課題意識を持つ、行政、社協、NPO、大学、民間企業の多様なメンバーが集まり動き出した「いき○研究会」。トヨタ財団の助成を受け調査・実践に取り組んだ2年間の活動を報告します。

シンポジウム 15:00~

「誰もが安心してありのままの自分を認め合える地域社会」に向けた課題や実践へ向かうヒントを、ゲスト、いき○研究会メンバー、そして会場のみなさんとともに考えます。



奥田 知志 / NPO 法人抱樸 理事長

ホームレスの人の支援を30年以上続ける、東八幡キリスト教会(北九州市)の牧師。NPO法人「抱樸(ほうぼく)」の理事長を務め、ホームレスの人々が路上生活を脱し、自らの足で自立するのを支援。自己責任や家族の役割ばかりが大きくなっている風潮の中で、何の心配もなく「助けて」と言える社会を訴え続けてます。希望のまちプロジェクトも2026年完成に向けて絶賛進行中です。



関水 徹平 / 明治学院大学社会学部社会福祉学科准教授

明治学院大学社会学部社会福祉学科准教授。福祉社会学を専門とし、2000年代半ばからひきこもりについて調査研究中。本人、家族、支援者へのインタビュー調査やひきこもりと関連する社会保障の仕組みについての研究をおこない、現在はひきこもり問題をめぐる国際比較に取り組んでいる。ひきこもりの会の世話人も務めている。

藤井 有紀 / いき○研究会 (米子市福祉政策課)

永見 陽平 / いき○研究会 (とっとり・よなご若者サポートステーション)

進行: 藤吉 航介 / いき○研究会 (株式会社社めぐ)

お申込は
こちら



問合せ



主催: いき○研究会 <https://ikimaru.wixsite.com/2023>

いき○研究会は、私たちが生きづらさを抱えたとき、地域社会で安心して暮らしていくために何ができるのかを考え、実践するプロジェクトチームです。

後援: 鳥取県 米子市 社会福祉法人米子市社会福祉協議会

